

視覚障害

視覚障害の人には、「視力が無い」「視野（見える範囲）が狭い」「色の判別がつかない」などの障害があり、文字の読み書きや移動・歩行等に不自由があります。

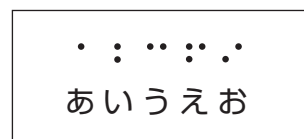
見え方も「まったく見えない（全盲）」「見えにくい（弱視）」などいろいろで、見えにくくなった時期などによっても、生活上の不自由さには差があります。弱視の人は、白杖を持っていない場合も多く、一見してわかりません。

※視覚障害に関する相談

障害者総合支援センター（ウェルポート）など………P.32～参照

必要な配慮等

- 目で見て得る情報を受け取ることが難しいため、点字や拡大文字、声で読み上げるなど、情報の発信の仕方を工夫する。弱視の方には、高い場所にある案内や看板は見えにくく、また、見えづらい配色があることに配慮する。



- ◆ 点字は6つの点を組み合わせて表します

◆ 拡大文字の大きさ(目安)

拡大 18ポイント
 拡大 22ポイント
 拡大 26ポイント

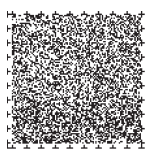
◆ 見えやすい配色の例

	背景	文字
仙台	黒色	黄色
仙台	黄色	青色
仙台	黒色	白色
仙台	みどりいろ	のうたん
	緑色の濃淡	

- 言葉で説明する際は、「あちら」「むこう」などの指示語でなく、「右側（左側）」「時計の9時の位置」など具体的に説明する。



- (職場などで) 物の配置は、いつも同じにする。歩行するルート上に物を置かない。



事例など

◆ 飲食店で、メニューが見えないので、店員に読み上げを頼んだが、「そのようなサービスは提供していません」と読んでくれなかった。

必要な配慮

メニューが見えないので、声で読み上げたり、「今日のおすすめは〇〇です」などとお伝えするといった配慮が必要です。

◆ 震災の避難所で、連絡事項が貼り出されるだけで、声でのアナウンスがなかったので気付かなかった。

必要な配慮

目で見て得る情報だけでなく、アナウンスするなどの音声による情報提供等の配慮が必要です。



点字ブロック※の上
に物を置かないで！

点字ブロックは歩行を補助する設備です。

その上に自転車や看板が置かれていたり、点字ブロックの上で立ち話をしていると困ります。

寄せられた好事例

◆ 点字ブロックの上に物が置いてあり、困っていたら、子ども達が進んで、どけてくれたので、大変助かった。

※点字ブロックは正式名称を「視覚障害者誘導用ブロック」といいます。

